

情報産業協会令和7年新年会開催

2025 年（令和 7 年）2 月 12 日松江エクセルホテル東急で、新年講演会及び交流会を開催しました。講演会に先立ち、中国経済産業局高野史広地域経済部長及び島根県議会吉田雅紀農林水産商工委員長に祝辞を頂きました。



コマツのグループ会社である㈱アースブレイン代表取締役社長小野寺昭則氏により「ビジネスモデルで先行し現場力の勝負に持ち込む EARTH BRAIN の実践」と題した講演を行っていただきました。講演会には、協会会員のほか、ビジネス研修会会員や、国・県・市の職員の方、84 名が参加しました。

小野寺氏の講演は以下の要旨でした。

建設プロセスをデータで構築し、効率化と安全性の向上をめざす建設現場の DX 化～スマートコンストラクション～をコマツは標榜している。このスマートコンストラクションの概念の発端は、コマツ会長の坂根正弘氏（広島生まれ、浜田育ちの元経団連副会長。現代の名経営者の一人と称されている）の「技術が素晴らしくても、それを活かすビジネスモデルがないとグローバル社会で勝てない」というメモであった。その後たまたま建設現場を知りうるコマツ系列会社の経営を担うなかで、スマートコンストラクションの考えが生まれた。顧客の問題解決に同時に資するものであり、これがコマツの経営戦略に組み込まれ、現在にいたっている。近年ドローンや AI など技術開発があり、3D データを用いたスマートコンストラクションは、建設計画の修正や現場との連携がとれ、精緻な可視化が可能となっている。建設業における PDCA サイクルの一翼を担い、コスト削減のツールとなっている。既存建設機械との連携等課題はあるものの、スマートコンストラクションをグローバルに展開させるのがコマツの戦略である。

小野寺氏の講演後、交流会を近年にない 93 名の多くの方の参加で開催しました。交流会では、協会福光靖代表理事副会長の挨拶の後、丸山達也島根県知事、山根幸二松江市副市長、及び大久佐明夫安来市副市長に祝辞を頂き、しまね産業振興財団馬庭正人代表理事理事長に乾杯の音頭をとって頂き、盛大な交流会の開宴となりました。およそ2時間の交流会もあっという間に過ぎ、協会北村功協会代表理事副会長の音頭で「ダーッ」の掛け声で新年を寿ぐ交流会の掉尾を飾りました。

